

# 木の实工作?どんぐり料理?

～放課後子ども教室～

須佐地域

# 公民館だより

第413号発行  
須佐公民館  
6-2310  
弥富公民館  
8-2044



木の实で工作 ～大人も子どもも夢中です～

放課後子ども教室も、だんだんと活気を増し、今、子どもたちとスタッフでいろいろなアイデアを出し合って、「もの作り」に励んでいます。

最近の教室を覗くと…木の实工作にドツブリはまりこんでいる様子。

十一月に入ってから、しいのみやどんぐりなどの木の实をいろんなところに探しに行つて、たくさん拾い集めました。

「これで工作ができる!」

と準備万端。本を見ながらあれもこれも、これもいいなどと話をしながらページをめくっていると、急に手の動きがふと止まりました。

『どんぐりは食べられる』

「え?食べられるの?」

ということから、大人スタッフは工作のこともしばし忘れてどんぐり料理の研究。子どもたちは、そんな大人にかまわず、木の实工作に取りかかっていました。

結局、大人のどんぐり料理は手間がかかりすぎて断念。本題の工作に戻ることにしました。

さて、十二月のメインといえば、やはりクリスマス。クリスマスといえばケーキ。木の实を使ってクリスマスケーキを作ることになりました。

その他にも、子どもたちのいろんな発想でかわいい人形などを作りました。

【完成した、木の实工作を次ページで紹介します。】



これは何だろう？



子どもたちには〈夢〉がありますね。



ココナツの鳥みたい

木の素工作は楽しいよ！  
どんな作品ができたかな？

### 演奏者

しいのみの帽子を使ってギターを作りました。(写真左)すこい！それらしく見えます。真ん中はボーカルかな？



### みんなで作った 手作りケーキ

とろってもおいしそうでしょ。早くクリスマス来ないかな…。



こんなリースもステキですね。お部屋に飾ったり、プレゼントにもいいかも。そして、最後は…



リース (スタッフ作成)

こちらはクリスマスコーナー



# 去る秋



それぞれの思いを、それぞれの形で...

〔須佐あおば勉強室〕

## 色えんぴつ画教室

十一月六日（火）須佐公民館で『色えんぴつ画教室』を行いました。

今「大人の塗り絵」が大ブーム。さっと出してさっと塗れるという点が人気の秘密！。指を動かすことで脳も活性化します。

十二月から、第二火曜日の午後、月一回の予定で教室をすることになりました。皆さんも、挑戦してみませんか？



重ね塗りの練習をする学級生

## 岡野先生に学ぶ参加者



## アート盆栽教室

十一月三十日（金）、岡野芳子（萩市今古萩）先生ご指導のもと、『アート盆栽教室』を開催しました。布などを使った手作りミニ盆栽です。学級生全員が初めての経験。指先を使った細かい作業に手こずり、先生に手伝っていただきながら、時間ぎりぎりいっぱい、何とか作品を仕上げることができました。

## 大自然の中...

### 大人のスケッチ大会

秋も終わりの十一月二十五日（日）、今年最後の芸術の秋を求めて、大人のスケッチ大会を開催しました。

最初に聖湖

周辺（三段峡）、その後匹見峡へ行き自然の風景をスケッチブックに書き写しました。

学生時代に絵の教室に通っていたという参加者の絵は全体的の構図をしっかりと捉えていて、素晴らしい線のタッチで描かれています。

「デッサンはよう描けん」という参加者も、スケッチブックを覗いてみると風景の特徴をよく観察して描いていました。

お昼は、匹見峡で手作りあったか豚汁定食。自然に囲まれて食べる昼食は心が和み食欲も湧きました。

自然の中で一日過ごすのもいいですね。



これは写真です



# 人権教育啓発作品展

## 審査結果



### 〔習字〕

- 金賞 福田 幸太郎 (育小六年)
- 金賞 大長 成輝 (育小二年)
- 金賞 大橋 朋華 (須中三年)
- 銀賞 小川 楓 (育小四年)
- 銀賞 村木 真央 (育小三年)
- 銀賞 大橋 阿弥 (須中一年)
- 銅賞 大井 佑希子 (育小五年)
- 銅賞 光國 亜希子 (育小一年)
- 銅賞 平田 健治 (須中三年)

### 〔作文・詩〕

- 金賞 山本 昌輝 (弥小一年)
- 金賞 金子 智美 (須中三年)
- 銀賞 中村 昇容 (鈴小四年)
- 銀賞 大野 広恵 (須中三年)

### 〔標語・短歌〕

- 金賞 平尾 京之介 (育小一年)
- 金賞 重永 航平 (育小六年)
- 金賞 斉藤 夏生 (須中三年)
- 金賞 花田 知穂 (須高三年)
- 銀賞 山谷 光月 (弥小二年)
- 銀賞 山根 勇人 (育小四年)
- 銀賞 藤山 邦人 (須中一年)
- 銀賞 迫村 瑞希 (須高二年)

- 銅賞 小松 美咲 (弥小一年)
- 銅賞 宮内 元哉 (育小五年)
- 銅賞 渡辺 成美 (須中一年)

## 人権教育啓発作品紹介

### 〔標語・短歌〕



- いわないよ  
こころがいたいちくちくことば  
育英小 一年 平尾 京之介
- ごめんなさいまほうのことばとなえよう  
弥富小 二年 谷岡 光月
- みんなすき  
いっしょになかよくあそぼうよ  
弥富小 一年 小松 美咲
- 見直そう自分の言葉と相手の気持ち  
育英小 六年 重永 航平
- キミからのその一言で笑顔咲く  
須佐中 三年 斉藤 夏生
- その言葉一度言ったら取り消せない  
須佐高 三年 花田 知穂
- 人間が人間として生まれながら持っている権利を一人ひとりが大切に守っていきましょう  
須佐高 二年 迫村 瑞希

### 〔詩〕

あいうえおで あそぼう  
弥富小 一ねん やまもとまさき

あいさついっぱい あいうえお  
からすもあいさつ かきくけこ  
さそつてあそぶよ さしすせそ  
たくさんあそぼう たちつてと  
なかよくあそぶ なにぬねの  
ははははわらうよ はひふへほ  
やくそくまもるよ やいゆえよ  
らんらんるるん らりるれろ  
わっはっはっは わいうえをん





# 家庭教育



## 会話をとおして豊かな心を



山口県立奈古高校須佐分校

教頭 鈴木 三郎



核家族化や少子化により、家族という集団がどんどん小さくなり、現在では家庭の中でも家族で話をする機会が少なく、一人ひとりが勝手に生活をしていることが多く見受けられる。

また、地域社会に目を向けると、隣近所とのつながりが希薄になり、道で会っても会話もなく、挨拶もしない状況が増えていくように思える。

このように、家庭内においても地域においても会話をする機会が少なく、良好な人間関係を作るのが難しくなっている。

私は、言葉というものは意志を伝えるだけではなく、心を育てることができると思っている。「ありがとう」、「いただきます」という何気ない言葉からは、「物や人への感謝の心」が育ち、高齢者に対しての優しい言葉がけは「尊敬する心」や「思いやる心」を育てるのに大変重要な役割を果たしている。会話をする時間がなかなかとれない家庭もあると思うが、わずかな時間

でも家族で会話を楽しんでいただけたらいいなと思う。

また、家庭だけではなく、地域の方との会話も子どもたちの心を豊かにしてくれる。道で会ったときに交わす挨拶や、別れ際の何気ないひと言が子どもたちにも安らぎや勇気を与えてくれる。子ども自身にとっては、自分は一人じゃない、いつも見守ってくれている人がそばにいてくれるという意識が、非行からも避けて通れるのではないかと思う。

今から十数年前、我が家の息子が、「近所のおじさんから、気をつけて帰れよと言われて、嬉しかった。今度あったら挨拶しよう。」と言っていたことを思い出した。今思うと、共働きであった我が家も、子どもたちには寂しい思いをさせており、地域や周りの人の支えによって、ずいぶん成長させていいただいたと感謝している。

現在、家族という集団が小さくなり、

子どもたちはパソコンやメールに目を向け、ますます家族での会話がますます少なくなってきたのではないだろうか。子どもたちに豊かな心を育てるため、我々大人が、日頃から美しい言葉や正しい言葉を使い、会話を通して家族の絆をより強く結び直すと同時に、地域全体で子どもたちを支え見守っていく必要があると思う。

『守つてあげれば、

こどもは、強い子に育つ』

著者 ドロシー・ロー・ノルト

『子どもが育つ魔法の言葉』より



ちよつと一言…



先日、福栄で子育て支援講座が開催され、講師の国弘勝代さんより『会話』についてお話を聞きました。

★子どもの話を、忙しいからと背を向けて聞いてはいませんか？

★夫婦で会話をするとき、そっぽを向いて聞いてませんか？また、夫婦の会話は五分以上してありますか？

これを実際に実演しながら考えたわけですが、私の胸にもグサツと突き刺さるものが…。また、夫婦の危機は会話の長さにも関係すると言われました。

皆さん、家族で「会話」してありますか？



# 古文書 コーナー

## 須佐の歴史(324) 隨行日記(20)

右衛門介殿今日被罷越  
候間孰レニテ御引受  
相成候哉の段相尋  
候処少々半途之儀も  
有之候え共只今より  
致仕構御客屋<sup>10</sup>ニ而  
御引受可仕由被申候ニ付  
承知之段相伸<sup>11</sup>  
格別御湊筋<sup>12</sup>無之候  
哉と相尋候処此内  
於内輪少し様子有之<sup>13</sup>  
候え共早速致取作<sup>14</sup>  
格別湊筋無之御引  
受可仕由ニ付其段又々  
栗翁迄申遣候事

【解説分】

右衛門介殿今日被罷越(まかりこされ)

候間孰レニテ御引受(あいなりのうや)

相成候哉の段相尋(あいたすね)

候処少々半途之儀も(これあり少々中途の儀も)

有之候え共只今より

致仕構御客屋<sup>10</sup>ニ而

御引受可仕由被申候ニ付

承知之段相伸<sup>11</sup>

格別御湊筋<sup>12</sup>無之候

哉と相尋候処此内(ないうちにおいて)

於内輪少し様子有之<sup>13</sup>

候え共早速致取作<sup>14</sup>

格別湊筋無之御引

受可仕由ニ付其段又々

栗翁迄申遣候事(栗山翁)

※今回を持ちまして古文書コーナーは終了します。

\*湊筋(つどいすじ)……差し支え

\*於内輪少し様子有之……徳山内証のこと

\*取作(とりつくろい)……取り繕い

\*客屋…預り人、罪人などを收容する建物  
\*伸(のべ)……述べ



# 生涯学習 作品コーナー



## 俳句



サングラスとれば穂やかゼントルマン

(八区) 岩本 登志子

秋の夜戦死の兄も八十路なる

(四区) 品川 玉枝

ひとり言ばかりの休日石路の花

(八区) 鈴木 孝子

秋の夜無沙汰の妹の長電話

(四区) 富田 八重子

訪れる人の笑顔や柚子を煮る

(五区) 林 愛子

語るごと降る黄葉をたのしめり

(二区) 原山 怜子

配達レの少年無口柿熟る

(八区) 林 二三子

まっ白なそば團ううそこはかと

(九区) 長田 トミエ

秋の香の残る匂や菊枕

(二区) 福嶋 文代

月仰ぐ我が命又一日過ぎ

(二区) 石川 崇子

冬の日の日ぐればわびし山茶花の散る

(六区) 立野 イネ子

## 短歌



蕎麦まつり母が教えたそばの味

百年経っても味は変わらじ

(九区) 長田 トミエ

濃淡の墨を穂先に含ませて

賀状に画く鼠の親子

(本町上) 岩本 美子

里山を染めつくしたり紅葉も

枯れ葉となりて寒風に舞う

(青葉台) 田村 雅利

満天星どうぜんの紅葉めでて秋深く

直ぐき小枝の千本の美うし  
(一区) 福嶋 文江

万物は冬えの備えにまっしぐら

婆古傷の痛みに泣き伏す

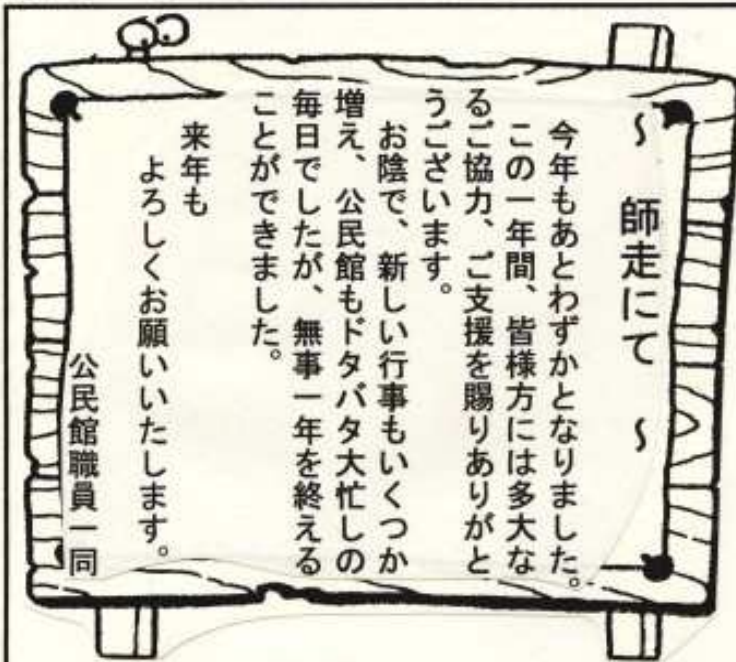
(一区) 石川 崇子

立ち話合榎せわし年の暮

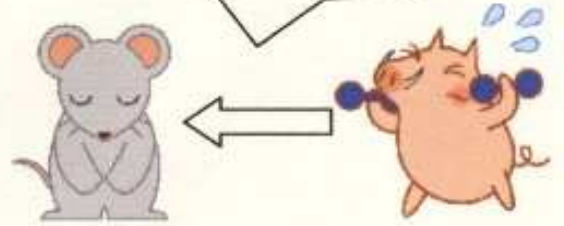
着ぶくれてしまへば気取る事もなく

(六区) 立野 イネ子





**お・知・ら・せ**  
 来年1月号からは、紙面を20年ぶりに一新し、新たな公民館だよりをお届けします。  
 どうぞ、お楽しみに！



平成20年

1月生涯学習関係カレンダー

日	月	火	水	木	金	土
		1	2 ・萩市成人式 (文化センター)	3	4 公務始め	5
6 ・消防出初式	7 ・子ども教室 「七草粥作り」 (須佐公民館)	8 ・各小・中学校 始業式 ・子ども教室 (須佐公民館)	9 ・子ども教室	10	11	12
13	14 成人の日	15 ・ばる～んず	16 ・子ども教室	17	18	19 ・のびのび教室 「スケート」 (サンビレッジ浜田)
20	21	22	23 ・やよい学級 (弥富公民館) ・子ども教室	24	25	26
27	28	29	30 ・子ども教室	31		

あせらずに 「まな坊」「まなみ」とともに歩もう 生涯学習